

教育委員会の権限に属する事務の
管理及び執行の状況に係る点検・
評価に関する報告書

(令和2年度事業分)



令和3年8月
雲仙市教育委員会



雲仙市教育方針

雲仙市教育委員会は、広く市民の理解、協力、参画のもとに、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進する。

このため、人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

雲仙市教育努力目標

- ふれあい、学びあい、認めあう生涯学習の推進
- 豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ学校教育の実現
- 明るい社会をつくる人権・同和教育の推進
- 夢と希望をもち、たくましさ・やさしさを身につけた青少年の育成
- 郷土の豊かさをはぐくむ芸術・文化の振興
- 健康で明るく、たくましい心とからだをはぐくむ生涯スポーツの振興
- 国際性豊かな人づくりの推進

目 次

1. はじめに	P 1
2. 雲仙市教育委員会の活動状況	P 2~6
(1) 教育委員会の構成		
(2) 教育委員会及び教育委員の主な活動報告		
①教育委員会開催		
②教育長及び教育委員による学校、社会教育施設訪問		
③その他の活動		
3. 雲仙市教育振興基本計画体系図	P 7
4. 点検及び評価の概要	P 8
(1) 点検及び評価の対象		
(2) 点検・評価方法		
5. 「施策の方針」の自己評価結果	P 8
6. 主要施策に係る点検評価シート		
(1) 教育環境の整備	P 9~11
①小・中学校施設の整備		
②社会教育施設等の整備		
③情報教育環境の整備		
(2) 学校教育の充実	P 12~19
①確かな学力を育成する教育の推進		
②豊かな心を育む教育の推進		
③学校体育の推進		
④健康安全教育の推進		

⑤特別支援教育の推進	
⑥教育相談事業の推進	
⑦国際理解教育の推進	
⑧安全・安心な学校給食の提供と食育の推進	
(3) 生涯学習の推進	…………… P20～23
①青少年の健全育成の推進	
②読書環境の充実	
③多様な生涯学習プログラムの実施	
④人権啓発活動の推進	
(4) 文化芸術の振興と歴史の継承	…………… P24～29
①文化芸術活動の推進	
②伝統的建造物群保存地区事業の推進	
③重要文化財 旧鍋島家住宅の公開活用	
④伝統文化の継承	
⑤文化財保護啓発の推進	
⑥埋蔵文化財の保存活用	
(5) スポーツの振興	…………… P30～33
①運動・スポーツ活動の日常化の推進	
②スポーツの競技力向上	
③ジュニアスポーツの推進	
④快適な活動の場の提供	
7. 学識経験者の所見	…………… P34～37

1. はじめに

雲仙市教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、雲仙市議会に提出するとともに市民の皆様に公表しています。これは平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されたことに伴い、同法第26条の規定に基づき平成19年度事業分から点検・評価を行うよう義務付けられたことによるものです。

雲仙市教育委員会では、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進するため、雲仙市教育方針や努力目標を掲げ、様々な取組を進めてまいりました。さらに平成28年4月に平成28年度から令和2年度までの5か年間を計画期間とする「第1期雲仙市教育振興基本計画」を策定し、この計画を教育行政推進の基本と位置づけ、その目標達成に向け様々な施策を展開していることから、平成28年度分からは「雲仙市教育振興基本計画」における主要施策の進捗状況を対象として点検・評価を行い、併せて教育委員会の活動状況を報告しています。

また、点検・評価を行うに当たっては、同法第26条第2項により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされており、学識経験者として元島原市立第五小学校長 吉田功造 氏に所見をいただいております。

雲仙市教育委員会では、今回の点検・評価及び 吉田功造 氏の所見を基に教育委員会の活性化及び事務事業の推進など教育行政の担い手としての役割を發揮し、更なる教育の充実に努めてまいり所存です。

令和3年8月16日

雲仙市教育委員会

2. 雲仙市教育委員会の活動状況

雲仙市教育委員会の会議は毎月1回、定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催し、施策や事業の効果的・効率的な実施や緊急な課題への適切な対応を図るための協議等を重ねています。令和2年度には、令和3年度から5か年間で計画期間とする「第2期雲仙市教育振興基本計画」について協議を重ね、策定いたしました。

定例教育委員会の会議以外の活動では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、総合教育会議（2回）において教育行政が抱える諸問題や第2期雲仙市教育振興基本計画の策定について市長との協議を行いました。またコロナ禍の中で行動の制限はありましたが、その他の活動にも積極的に参加するなど、教育行政の中心的な役割を担い、教育施策の推進を図りました。

(1) 教育委員会の構成（令和3年4月1日現在）

区別	氏名	年齢	任期	
			任命年月日	満了年月日
教育長	下田 和章	59	令和 2年 3月 1日	令和5年 2月 28日
教育委員 (教育長職務代理者)	前田 眞一	67	平成30年12月2日	令和4年12月 1日
教育委員	駒田 義弘	65	令和 2年12月2日	令和6年12月 1日
教育委員	森下 祐樹	49	平成29年12月2日	令和3年12月 1日
教育委員	仁禮智加子	45	令和 元年12月2日	令和5年12月 1日

(2) 教育委員会及び教育委員の主な活動報告

①教育委員会開催

令和2年度は、定例会を12回、臨時会を1回開催し、教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認するとともに議案23件、報告事項19件について審議等を行いました。

会議名 (開催日)	種別	主な審議事項
第1回 定例会 (4月22日)	報告	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	報告	雲仙市社会教育委員の委嘱について
	報告	雲仙市文化財保護審議会委員の委嘱について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
	報告	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第2号)について)
第2回 定例会 (5月25日)	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(雲仙市奨学資金貸付基金条例の一部を改正する条例について)
	議案	雲仙市リフレッシュセンターおばまの管理及び運営に関する規則の制定について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第5号)案について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(工事請負契約の変更について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(工事請負契約の変更について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(工事請負契約の変更について)
	議案	雲仙市立小・中学校の令和2年度夏季休業日における授業実施の申請について
	議案	雲仙市教育振興基本計画検討委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市奨学資金貸付基金条例施行規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市学校給食運営審議会委員の委嘱について
第3回 定例会 (6月30日)	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第6号)について)
	議案	雲仙市学校運営協議会規則の一部を改正する規則について
	議案	雲仙市奨学資金貸付審議会委員の委嘱について
第4回 定例会 (7月27日)	報告	権利放棄の報告について
	報告	権利放棄の報告について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第8号)案について)
	議案	雲仙市市立学校におけるハラスメントの防止等に関する要綱の一部を改正する要綱について
	議案	令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 5 回 定例会 (8月20日)	議案	令和元年度事業分に関する「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」の作成について
	議案	職員の処分について
第 6 回 定例会 (9月28日)	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(動産の買入れについて)
	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(動産の買入れについて)
	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(動産の買入れについて)
	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(動産の買入れについて)
第 7 回 定例会 (10月28日)	議案	雲仙市芸術文化大会出場激励費交付基準の一部を改正する訓令について
第 8 回 定例会 (11月25日)	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第10号)について)
第 1 回 臨時会 (12月2日)	報告	雲仙市教育委員会の構成について
第 9 回 定例会 (12月23日)	報告	雲仙市立小・中学校修学旅行中止等に伴うキャンセル料補助金交付要綱の制定について
第 1 0 回 定例会 (1月28日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について(令和3年度一般会計当初予算案について)
第 1 1 回 定例会 (2月22日)	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(令和2年度一般会計補正予算(第13号)について)
	議案	雲仙市スポーツ振興費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	議案	雲仙市教育振興基本計画の策定について
	議案	令和3年度雲仙市立小・中学校教職員人事異動の内申について
第 1 2 回 定例会 (3月23日)	報告	教育委員会事務局職員の人事異動について
	報告	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について(工事請負契約の変更について)
	議案	雲仙市教育振興基本計画の策定について(継続協議)

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
	議案	雲仙市図書館協議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について

②教育長及び教育委員による学校、社会教育施設訪問

教育長及び教育委員は、市立小・中学校の学校経営及び学校施設等の整備状況を把握することで、学校教育への理解を深め、学校教育の振興を図ることを目的に、教育長及び教育委員による学校訪問を毎年、年4回行い、それぞれの学校の日々の取り組みや施設の状況を確認しています。また令和元年度からは、併せて社会教育施設等の視察も行っています。

しかし、令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が一時休業となったことから、授業時間の確保などを考慮し、社会教育施設等の視察も含めすべて中止といたしました。

③その他の活動

期 日	活動内容	備 考
令和2年 4月 1日	新規採用・転入教職員（管理職）辞令交付式	
令和2年 4月 7日	市内中学校入学式	出席見送り
令和2年 4月 8日	市内小学校入学式	出席見送り
令和2年 5月 日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会及び研修会	諫早市（中止）
令和2年 6月25日	雲仙市中学校総合体育大会 陸上競技大会	長崎県立総合運動公園 出席見送り
令和2年 6月27日 6月28日	雲仙市中学校総合体育大会 球技・武道大会	出席見送り
令和2年 8月20日	総合教育会議 議題「成人式のあり方について」「小・中学校における携帯電話の取り扱い等について」	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく市長との協議
令和2年 7月下旬	「社会を明るくする運動」雲仙市中学生弁論大会	中止

期 日	活動内容	備 考
令和2年 7月 下旬	雲仙市民スポーツ大会総合開 会式	中止
令和2年 8月21日	雲仙市教育講演会	中止
令和2年10月18日	雲仙市レクリエーション&ス ポーツフェスタ	出席見送り
令和2年11月 上旬	長崎県民体育大会結団壮行式	中止（大会は11月14 日、15日開催）
令和2年10月 6日	雲仙市中学校総合体育大会 駅伝大会	長崎県立総合運動公園 出席見送り
令和2年11月 5日	新任教育委員研修会	五島市（中止）
令和2年11月 5日	長崎県中学校総合体育大会 駅伝大会	長崎県立総合運動公園
令和2年11月 6日	長崎県市町村教育委員会研究 大会	五島市（中止）
令和2年11月 6日	土黒小学校市指定研究発表会	出席見送り
令和2年12月 4日	大塚小学校県・市指定研究発 表会	出席見送り
令和2年12月 5日	雲仙市少年の主張大会	審査員長、審査員
令和3年 1月 4日	雲仙市成人式	中止
令和3年 1月 5日	雲仙市消防出初式	出席見送り
令和3年 2月 8日	総合教育会議 議題「雲仙市教育振興基本計 画の策定について」	「地方教育行政の組織及 び運営に関する法律」に基 づく市長との協議
令和3年 2月11日	雲仙市美術展覧会オープニン グセレモニー	セレモニーは中止
令和3年 3月16日	市内中学校卒業式	出席見送り
令和3年 3月18日	市内小学校卒業式	出席見送り
令和3年 3月31日	教職員退職者辞令交付式	

3. 雲仙市教育振興基本計画体系図

雲仙市教育方針

明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり

人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。



4. 点検及び評価の概要

(1) 点検及び評価の対象

平成28年に策定した「雲仙市教育振興基本計画」の基本方針に基づく個々の主要施策(Plan)を点検の対象とし、その取組状況(Do)を評価検証する(Check)とともに、その事業達成に向け課題を明確化することにより、次年度以降の取組の方向性を示す(Action)、PDCA サイクルによる事務事業の点検及び評価を行います。

(2) 点検・評価方法

事務の点検及び評価については、各主要施策の取組や達成状況を踏まえ、進捗状況を5段階（Aを5点～Eを1点）で示し、それを平均したものを「施策の方針」の進捗状況としました。

「施策の方針」の評価区分	ランクの数値	主要施策ランク	
計画を上回って進捗	4.6 以上	A	5
計画どおり進捗	3.6～4.6 未満	B	4
一部課題はあるが概ね計画どおり進捗	2.6～3.6 未満	C	3
計画が、全体的に遅れがある	1.6～2.6 未満	D	2
計画の多くが未達成又は見直しが必要	1.6 未満	E	1

※「施策の方針」の評価＝主要施策ごとの点検シートのランクの数値合計÷主要施策数

5. 「施策の方針」の自己評価結果

雲仙市教育振興基本計画における各主要施策の取組や達成状況を踏まえた、「施策の方針」の自己評価結果は、以下のとおりとなりました。25の主要施策数のうちAランクが1施策、Bランクが12施策、Cランクが11施策、Dランクが0施策、Eランクが1施策となっています。

施策の方針	評価結果	主要施策数
教育環境の整備	B（平均4.0点）	3施策
学校教育の充実	B（平均3.6点）	8施策
生涯学習の推進	C（平均3.5点）	4施策
文化芸術の振興と歴史の継承	C（平均2.8点）	6施策
スポーツの振興	B（平均3.8点）	4施策

6. 主要施策に係る点検評価シート

(1) 教育環境の整備

点検評価シート

担当課 総務課

基本方針	教育環境の整備	主要施策 1	小・中学校施設の整備
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 各学校で学校施設の定期的な安全点検を実施し、危険箇所の改修等により児童生徒の安全を確保する。 学校施設整備事業計画を作成し、快適に学習できる環境を整備する。 【校舎と体育館の外壁の耐震化率の向上(H26) 26%→(R2) 50%以上】 		
2年度の取組状況	<p>○ 快適な学習環境づくり 小・中学校の安全で安心な教育環境を維持するため学校施設整備事業計画をもとに学校施設の修繕、改修工事等を実施した。</p> <p>【小学校施設大規模改修事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小浜小学校校舎屋上防水改修工事 (25,297千円) 北串小学校校舎防水改修工事 (27,413千円) 南串第二小学校校舎屋上防水改修工事 (49,577千円) <p>【単独整備事業(小学校・中学校)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校施設単独整備事業 (102件:57,144千円) 中学校施設単独整備事業 (42件:33,954千円) <p>○ 学校の教育環境改善及び防災機能強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 老朽化した校舎や体育館の外壁(非構造部材)の耐震補強を実施し、防災機能の強化と、安全安心な教育環境の整備を行うため実施設計業務を行った。 愛野中学校の教室不足を解消するため別館の建設工事を行った。 <p>【公立学校施設整備事業(中学校):公立学校施設整備費負担金事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛野中学校校舎別館建設工事(建築主体工事・機械設備工事・電気設備工事) (3件:30,000千円) 3件:64,662千円繰越処理 愛野中学校延焼ライン改修工事(建築主体工事・機械設備工事) (2件:21,203千円) <p>※校舎と体育館の外壁の耐震化率 38%(令和2年度末現在)</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校の防災機能強化については、国の学校施設環境改善交付金の申請を行い、西郷小学校校舎、大塚小学校屋内運動場、南串第二小学校屋内運動場の屋上防水及び外壁等改修工事の実実施設計業務を行った。 外壁の耐震化率は、計画策定時に目標とした耐震化率50%に届かなかったが、その後策定した「雲仙市学校施設長寿命化計画」に基づき計画的に遂行している。 愛野中学校延焼ライン改修工事は年度内に完了したが、愛野中学校校舎別館建設工事は契約変更を行ったため繰越処理を行うこととなった。 市内の小中学校は、建築から40年を超える学校施設が多いことから、今後も維持していくためには、屋上防水や外壁などの改修を行う必要があること。また、トイレ洋式化や照明器具などの改修に係る予算についても確保が必要であることが、目標達成に向けた今後の課題である。 		
自己評価	C	<p>A:計画を上回って進捗 B:計画どおり進捗 C:一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D:計画が全体的に遅れ E:計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「快適な学習環境づくり」については、引き続き屋上防水改修工事等の大規模改修工事と単独整備事業を進め、教育環境の改善に努める。 「学校の防災機能強化」については、国庫補助及び起債の活用など財源を確保しながら外壁改修工事等に引き続き取り組んでいく。 愛野小学校の教室不足を解消するため校舎の増築工事を行う。 		

基本方針	教育環境の整備	主要施策 2	社会教育施設等の整備
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設の適切な維持管理を行うとともに老朽化した施設の改修を行う。 【老朽化した施設改修の実施 愛野町公民館及び図書館[愛野コミュニティセンター（仮称）内]、南串山図書室を令和2年度までに整備する。】 		
2年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育施設等の整備 <ul style="list-style-type: none"> 瑞穂町公民館整備【建設は瑞穂総合支所庁舎と併せ財産管理課が担当】 令和3年7月竣工予定 令和3年9月（図書室は10月）オープン予定 小浜町文化館は、老朽化のため令和2年5月7日に閉館 図書室は、令和2年7月から小浜総合支所2階へ移設 <p>※達成目標に挙げた愛の夢未来センターについては、令和元年11月にオープン、南串山図書室については、平成30年4月にオープン済み。</p> ○ 社会体育施設等の整備 <ul style="list-style-type: none"> 新小浜体育館（仮称）建設事業【平成30年度から継続して実施】 工期：令和2年3月30日～令和3年11月19日 <p>※瑞穂体育館については、耐震診断及び耐震工事の設計業務は行っているが、今後の施設のあり方について、結論が出ていないため、耐震工事は未着工。</p> 		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 瑞穂町公民館建設については、瑞穂総合支所庁舎建設と併せ、財産管理課が主となり進めているが、令和3年7月竣工に向け順調に工事をすすめることができた。 小浜体育館は、令和3年11月の竣工に向け工事を行っている。 		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 瑞穂町公民館は、令和3年9月のオープンに向け備品等の整備を行う 小浜体育館は、令和3年11月の完成に向け新築工事を行う。 瑞穂体育館は耐震診断の結果を基に耐震補強工事の実設計を終えたが、施設の個別計画の方針が定まるまで耐震補強工事を保留とする。 		

基本方針	教育環境の整備	主要施策 3	情報教育環境の整備
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、電子黒板等情報機器の整備を図り、時代に応じたICT環境を整備する。 ・電子教科書の導入検討を行う。 ・普通教室の電子黒板整備率(H26) 11%→(R2) 100% 		
2年度の取組状況	<p>○ 時代に応じたICT環境の整備 国が進めるGIGAスクール構想により、児童・生徒1人1台学習用コンピュータの整備並びに高速通信ネットワークの整備を行ったほか、引き続き電子教科書（デジタル教科書）の活用を行った。</p> <p>【教育環境整備事業（小・中学校）】 デジタル教科書整備（19,862千円） 小学校 17校 国語・算数・理科・社会 中学校 7校 国語・数学・理科・社会・英語</p> <p>【教育環境整備事業（小・中学校）】 小中学校情報通信ネットワーク環境整備事業（110,846千円） 小学校 17校 中学校 7校 整備内容 ・校内LAN整備工事 ・電源キャビネット整備工事 ・ネットワーク機器設置及び設定（基幹ハブ、フロアハブ、アクセスポイント）</p> <p>小中学校学習者用コンピュータ整備事業（132,281千円） 整備内容 タブレット端末（ChromeBook）3,412台 ・小学校 2,312台（児童用2,143台、教師用169台） ・中学校 1,100台（生徒用1,041台、教師用59台）</p> <p>家庭学習のための通信環境整備及び遠隔学習機能強化（5,587千円） 整備内容 就学援助等受給世帯等に貸与するモバイルwifiルーター348台のほか遠隔授業に用いるWebカメラ25台購入 ・小学校 モバイルWi-Fiルーター 213台 Webカメラ 18台 ・中学校 モバイルWi-Fiルーター 135台 Webカメラ 7台</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の導入については、小学校に国語・算数・理科・社会を導入し、次期改定されるまでのライセンス版を導入、中学校に国語・数学・理科・社会・英語を予定通り導入した。 ・文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づき、令和2年度に校内ネットワーク整備及び児童生徒が用いるタブレット端末の整備を実施した。 		
自己評価	A	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に整備した校内ネットワークの活用を推進するため、インターネット環境を強化する。 ・タブレット端末の有効活用を推進するため、学習ドリル等を導入する。 ・タブレット端末の安心安全な利用を図るため、フィルタリングソフトを導入する。 		

(2) 学校教育の充実

点検評価シート

担当課 学校教育課

基本方針	学校教育の充実	主要施策 1	確かな学力を育成する教育の推進														
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査において、小学校は全国平均正答率、中学校は県平均正答率を上回る。 【小学校 (H27) 全国比-4.9~-0.4 → (R2) 全国平均】 【中学校 (H27) 県比-4.4~-2.2 → (R2) 県平均】 																
2年度 の取組 状況	<p>○研究指定事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩戸小・瑞穂中・小浜中をR2・R3年度の研究指定校とした。 ・土黒小と大塚小はR元年度からの指定で、R2に研究発表会を行い、市内より多くの教職員が参加した。(土黒小：50名、大塚小：61名) ・各校に対して、指導主事が適宜助言を行った。 <p>○学力調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲仙市学力調査を令和2年12月17日に実施した。対象学年を小学2年～中学2年とし、国・県調査で確認することができない学年も含め実施することで本市児童生徒の学力を把握する新たな検証軸としている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>* R2全国学力学習状況調査 → 中止</p> <p>* R2県学力調査結果【小5・中2】 ()は県平均正答率との差</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">小学校</td> <td style="padding: 2px;">国語</td> <td style="padding: 2px;">52.8 (+1.1)</td> <td style="padding: 2px;">算数</td> <td style="padding: 2px;">60.5 (+2.7)</td> <td style="padding: 2px;">理科</td> <td style="padding: 2px;">57.5 (+1.8)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">中学校</td> <td style="padding: 2px;">国語</td> <td style="padding: 2px;">62.3 (-0.1)</td> <td style="padding: 2px;">数学</td> <td style="padding: 2px;">47.2 (-2.0)</td> <td style="padding: 2px;">英語</td> <td style="padding: 2px;">43.6 (-4.6)</td> </tr> </table> <p>小学校では国語、算数、理科(小6)のすべてにおいて、県平均を上回っている。中学校では国語、数学、英語(中3)のすべてにおいて、県平均を下回っている。その中でも、中学校英語が県平均を-4.6ポイント下回っており、特に課題である。</p> </div>			小学校	国語	52.8 (+1.1)	算数	60.5 (+2.7)	理科	57.5 (+1.8)	中学校	国語	62.3 (-0.1)	数学	47.2 (-2.0)	英語	43.6 (-4.6)
小学校	国語	52.8 (+1.1)	算数	60.5 (+2.7)	理科	57.5 (+1.8)											
中学校	国語	62.3 (-0.1)	数学	47.2 (-2.0)	英語	43.6 (-4.6)											
評価 検証 及び 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・上記取組により、学力調査への市内24校教員の学力向上に対する意識は向上している。特に、小学校においては、「学力=習得した知識・技能を活用して様々な課題に対処する力」への意識改革の浸透と、調査対象学年だけでなく、全校的な学力向上のための取組が成果をあげている。中学校においては、教科の壁を越えた学力向上への全校的な取組を更に進める必要がある。 																
自己 評価	B	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>															
次年度 以降の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の取組を引き続き実施し、各校における学力向上を図っていく。 ・改訂学習指導要領の全面実施に合わせて、適切な指導を行う。 ・学力向上に係る学校訪問により、該当校への適切な指導助言を行い、学力向上を目指す。 																

基本方針	学校教育の充実	主要施策 2	豊かな心を育む教育の推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全小学校で学校間交流学习を実施する。 【小学校における学校間交流 (H26) 15校 → (R2) 20校】※R2は全17校 いじめの問題ゼロを目指す。 【小学校いじめ認知件数 (H26) 17件 → (R2) 0件】 【中学校いじめ認知件数 (H26) 5件 → (R2) 0件】 		
2年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳・人権教育の充実 道徳の教科化（特別の教科 道徳）による取組を推進した。 【研修会】 独立行政法人教職員支援機構主催「道徳教育指導者養成研修(NITSオンライン研修）」への参加（教頭1名） 【研究指定】 大塚小学校を研究校に指定 ○ 小学校間交流学习の推進 宿泊体験学習や修学旅行などを合同で行うことにより、他校児童との交流を深めるとともに、活動費における保護者負担を軽減した。 (R02) 17校実施 実施) ○ 雲仙市子どもの心を見つめる教育週間 保護者や地域住民による授業参観や交流を通して、児童生徒の健やかな成長を図ることを目的として実施した。 【実施期間】 9月から11月の間で各学校が設定する期間 【関係者】 学校訪問者 (2,877名) 企画や運営、ゲストティーチャー、安全対策等にかかわった保護者や地域住民 (402名) ○ 「いじめを許さない学校」づくり 各学校のいじめ防止対策委員会等の開催を通して、多くの目によるいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 【研修会】 年1回実施（生徒指導主事・生活指導主任対象） 【雲仙市いじめ防止アンケートの実施】 市内全小・中学校において「教育週間」中あるいは前に実施した。 【いじめの認知件数】 1学期・・・151件 2学期・・・176件 3学期・・・49件 ○ ジオパーク学習への取組 ジオパークと関連した学習を通し、郷土の自然の美しさや災害への対応、人々の生活の様子を知ること、豊かな情操を育むことを目的とした。 (例) ジオパーク見学活動、災害学習など 		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 大塚小学校が研究指定校として「特別の教科 道徳」の実践を発表し、市内小・中学校の参考となる具体的な取組を啓発 いじめの認知件数では、「いじめの定義」の定着により、より多くのいじめが認知されるようになった。「いじめ認知」については、全職員で共通理解を図った上で対応し、早期に解決し、「いじめ見逃しをゼロ」を目指す。 		
自己評価	<p>B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>		
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、長崎県人権教育研究大会が雲仙市で開催予定であるので、市内全ての学校からの参加を指示し、道徳・人権教育の一層の充実を図っていく。 各学校のいじめ防止対策委員会に外部委員を必ず設定するなど、「いじめ見逃しゼロ」及び早期対応を図っていく。 小学校間交流学习については、学校数の減少を考慮しながらより効果的な実施を推進する。 		

基本方針	学校教育の充実	主要施策 3	学校体育の推進													
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、全小・中学校において「体力向上アクションプラン」を作成し、体力・運動能力テストにおいて、小5・中2で全国平均値を3種目以上上回る。 【小学校5年男子（H27）全国平均<6種目 → （R2）全国平均<7種目】 【小学校5年女子（H27）全国平均<5種目 → （R2）全国平均<7種目】 【中学校2年男子（H27）全国平均<2種目 → （R2）全国平均<4種目】 【中学校2年女子（H27）全国平均<4種目 → （R2）全国平均<6種目】 															
2年度 の取組 状況	<p>○体力向上アクションプラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校において、授業の準備運動の中で「ジャックナイフストレッチ」に積極的に取り組み、市の課題でもある柔軟性の向上を図っている。 ・昼休み等の時間に、外遊びのレクリエーション等を企画したり、「フィットネスチャレンジながさき」を参考にした運動を取り入れたりなど、運動習慣の確立が図られている。 ・運動と健康との関連から、学校保健委員会等で基本的な生活習慣の確立や運動習慣の改善のための課題を、家庭と共有している。 <p>参考資料：R1結果（※R2年は新型コロナウイルス感染症防止のため中止）</p> <table border="1" data-bbox="252 1061 1299 1590"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>全国平均を上回った種目</th> <th>全国平均を下回った種目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小5</td> <td>男子 握力、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (5種目)</td> <td>上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び (3種目)</td> </tr> <tr> <td>女子 握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (6種目)</td> <td>長座体前屈、立ち幅跳び (2種目)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中2</td> <td>男子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走 (4種目)</td> <td>長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (4種目)</td> </tr> <tr> <td>女子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (7種目)</td> <td>長座体前屈 (1種目)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○長崎県体力向上支援等事業や武道等指導充実・資質向上支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の体育・保健体育科担当を中心に、積極的な活用及び参加を促した。 			学年	全国平均を上回った種目	全国平均を下回った種目	小5	男子 握力、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (5種目)	上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び (3種目)	女子 握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (6種目)	長座体前屈、立ち幅跳び (2種目)	中2	男子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走 (4種目)	長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (4種目)	女子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (7種目)	長座体前屈 (1種目)
学年	全国平均を上回った種目	全国平均を下回った種目														
小5	男子 握力、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (5種目)	上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び (3種目)														
	女子 握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ (6種目)	長座体前屈、立ち幅跳び (2種目)														
中2	男子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走 (4種目)	長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (4種目)														
	女子 握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ (7種目)	長座体前屈 (1種目)														
評価 検証 及び 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、長座体前屈（柔軟性）であるため、「体力向上アクションプラン」の実践を通して、柔軟性の向上と各校の課題に応じたバランスの良い体力の向上を展開していく必要がある。 ・部活動における適切な休養日等について、「雲仙市立学校の部活動等に係る活動方針」に基づき、適切な部活動等の推進及びその徹底を図る。 															
自己 評価	<p>C</p> <p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>															
次年度 以降の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態に即したバランスの良い体力の向上を目指すとともに、授業の準備運動時における「ジャックナイフストレッチ」を取り入れたストレッチ運動を継続し、市の課題でもある柔軟性の向上を図る。 ・適切な部活動等の推進及びその徹底を図る。 ・ラジオ体操を推進する。 															

基本方針	学校教育の充実	主要施策 4	健康安全教育の推進										
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全小学校でフッ化物洗口を実施し、一人あたりのう歯率を減少させる。 【小学校6年児童（H26）1.45本 → （R2）0.8本以下】 毎年度、各学校で通学路安全点検を実施し、危険箇所対応を継続する。 												
2年度の取組状況	<p>○ フッ化物洗口事業 全小・中学校で100%実施。雲仙市校長・教頭研修会や養護教諭研修会等において、引き続き全小・中学校における完全実施を指導した。</p> <p>島原南高歯科医師会実態調査結果 【一人平均う歯数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校（R1）0.5本 → （R2）0.5本 ・小6 （R1）1.0本 → （R2）0.9本 ・中学校（R1）2.2本 → （R2）1.9本 <p>○ 通学路の安全確保 通学路の安全確保のために、平成24年度から各学校に安全点検を行い、関係機関と連携し、順次対策を講じた。</p> <p>○ 小中学生の交通事故件数</p> <table border="1" data-bbox="256 1249 746 1330"> <tr> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>9件</td> <td>11件</td> <td>6件</td> <td>4件</td> <td>5件</td> </tr> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	9件	11件	6件	4件	5件
H28	H29	H30	R1	R2									
9件	11件	6件	4件	5件									
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校におけるフッ化物洗口に対する取組は良好で、令和2年度は市内の全小・中学校で実施することができた。今後も、フッ化物洗口事業を推進していく。 通学路については、予算等の兼ね合いもありハード面については、対応に時間がかかるが、計画的に対応を講じていくよう関係機関に働きかけをしていきたい。また、学校には、ハード面の対策が講じられるまでは、ソフト面で児童生徒の安全確保に努めるようさらに指導していきたい。 												
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要											
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校へのフッ化物洗口実施に向けた取組を推進していく。 通学路については、「雲仙市通学路交通安全プログラム」の見直しを図りながら、関係部局・機関と連携して対応していく。 												

基本方針	学校教育の充実	主要施策 5	特別支援教育の推進
------	---------	-----------	-----------

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒の実態に応じた特別支援学級を設置する。 ・全小・中学校へのスクールサポーターの配置を継続する。
------	--

2年度 の取組 状況	○特別支援学級・通級指導教室の設置								
	【特別支援学級の設置】								
	小学校				中学校				
	学級種別	学級数	前年度比	人数	前年度比	学級数	前年度比	人数	前年度比
	知的障害	13	0	24	-1	4	-2	11	-2
	自閉症・情緒障害	10	0	18	-1	4	0	6	+1
	肢体不自由	2	0	3	0	0	0	0	0
	言語障害	4	+1	7	+2	0	0	0	0
	病弱	2	0	2	0	1	0	1	0
	弱視	1	0	1	0	0	0	0	0
合計	32	+1	55	0	9	-2	19	-1	
【通級指導教室の設置】									
小学校				中学校					
学級種別	教室数	前年度比	人数	前年度比	教室数	前年度比	人数	前年度比	
LD・ADHD等	4	0	54	+11	1	+1	14	+14	
※LDとは、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する 又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもの ※ADHDとは、年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性が認められ、 社会的な活動や学校生活を営む上で著しい困難を示すもの									
○スクールサポーター配置事業 配置27名〔小学校20名(2名配置3校)、中学校7名(全校配置)〕									
【活動内容及び実績(年間)】									
①授業支援				④図書貸し出し冊数(令和元年度実績)					
小	平均支援時間	556.6時間		小	年間貸し出し冊数	307,189冊			
	(1日あたりの支援時間)	(3.0時間)			(1人あたりの貸し出し冊数)	143冊			
中	平均支援時間	353.7時間		中	年間貸し出し冊数	43,562冊			
	(1日あたりの支援時間)	(1.9時間)			(1人あたりの貸し出し冊数)	41冊			
②別室登校学習支援									
小	平均支援時間	21.3時間							
	(1日あたりの支援時間)	(0.1時間)							
中	平均支援時間	1時間							
	(1日あたりの支援時間)	(0.14時間)							
③教育相談									
中	平均相談回数	106.5回							
	(1日あたりの相談回数)	(0.5回)							

評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育では、児童生徒の実態を第一に考え、必要な学級を設置することができている。今後さらに児童生徒、保護者、関係機関との連携を図り、効果的な教育を推進していく。 ・スクールサポーター事業では、学習支援や教育相談、図書司書業務など概ね有効活用が図られている。別室登校学習支援業務も小・中学校両方において昨年度より多くなっている。一方、年度開始時から必要人数に達せず、広報誌等を通じた募集を実施し、8月には予定数の配置ができた。
----------	--

自己評価	B	A: 計画を上回って進捗 B: 計画どおり進捗 C: 一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D: 計画が全体的に遅れ E: 計画に大幅な遅れ又は見直しが必要
------	---	---

次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育については、特別支援学級や通級指導教室の設置のみではなく、通常学級に在籍する児童生徒に対しても効果的な教育課程の編成や個別の支援計画、指導計画の作成が図られるようにしていくとともに、特別支援学級担任及び通級指導教室担当者の指導力の向上を図っていく。また、連携機関との関係をさらに深めたい。 ・スクールサポーター事業では、各学校の状況を適確に把握し、効果的な複数配置を推進する。
----------	--

基本方針	学校教育の充実	主要施策 6	教育相談事業の推進																																					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 不登校、学校生活不適應児童生徒や保護者に対して、学校や関係機関との連携を通して、訪問指導や相談などの直接的支援を充実する。 <p>【不登校児童生徒数（H26）14人 → （R2）10人未満】</p>																																							
2年度の取組状況	<p>○ 児童生徒サポートセンター事業 学校不適應児童生徒等や本人または家庭に問題を抱えている児童生徒等に対して、学校、関係機関等と連携しながら、訪問指導、面談などの直接的な支援活動を行い、学校復帰や本人または家庭の問題解消を目指した。</p> <p>【訪問指導員の配置】 1名（2,022千円）</p> <p>【スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置】 1名（県教委からの派遣）</p> <table border="1" data-bbox="258 790 1465 904"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応児童生徒人数</th> <th>学校訪問</th> <th>家庭訪問</th> <th>個別指導</th> <th>ケース（ケア）会議</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問指導員</td> <td>14名</td> <td>36回</td> <td>158回</td> <td>254回</td> <td>7（8）回</td> </tr> <tr> <td>SSW</td> <td>20名</td> <td>49回</td> <td>40回</td> <td>14回</td> <td>9（2）回</td> </tr> </tbody> </table>						対応児童生徒人数	学校訪問	家庭訪問	個別指導	ケース（ケア）会議	訪問指導員	14名	36回	158回	254回	7（8）回	SSW	20名	49回	40回	14回	9（2）回																	
		対応児童生徒人数	学校訪問	家庭訪問	個別指導	ケース（ケア）会議																																		
	訪問指導員	14名	36回	158回	254回	7（8）回																																		
	SSW	20名	49回	40回	14回	9（2）回																																		
<p>○ 親子ホットライン事業 子どものいじめ・不登校問題をはじめとする、種々の教育相談に対応することを目的とした。</p> <p>【電話料金】 1台（42千円） 【相談回数】 保護者（2回）</p> <p>* 雲仙市不登校児童生徒数</p> <table border="1" data-bbox="258 1167 1264 1393"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>（県）</th> <th>中学校</th> <th>（県）</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28年度</td> <td>2名（0.1%）</td> <td>0.5%</td> <td>21名（1.7%）</td> <td>3.5%</td> <td>23名（0.8%）</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>1名（0.04%）</td> <td>0.5%</td> <td>28名（2.5%）</td> <td>3.0%</td> <td>29名（0.9%）</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>5名（0.2%）</td> <td>0.6%</td> <td>24名（2.2%）</td> <td>3.3%</td> <td>29名（0.9%）</td> </tr> <tr> <td>R01年度</td> <td>4名（0.2%）</td> <td>0.7%</td> <td>24名（2.3%）</td> <td>4.0%</td> <td>28名（0.9%）</td> </tr> <tr> <td>R02年度</td> <td>7名（0.3%）</td> <td></td> <td>24名（2.3%）</td> <td></td> <td>31名（1.0%）</td> </tr> </tbody> </table> <p>（R02年度については速報値であり、県の集計は未公表）</p> <p>※ 不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし、「病氣」や「経済的理由」による者を除く。）で、年間連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒。</p>						小学校	（県）	中学校	（県）	計	H28年度	2名（0.1%）	0.5%	21名（1.7%）	3.5%	23名（0.8%）	H29年度	1名（0.04%）	0.5%	28名（2.5%）	3.0%	29名（0.9%）	H30年度	5名（0.2%）	0.6%	24名（2.2%）	3.3%	29名（0.9%）	R01年度	4名（0.2%）	0.7%	24名（2.3%）	4.0%	28名（0.9%）	R02年度	7名（0.3%）		24名（2.3%）		31名（1.0%）
	小学校	（県）	中学校	（県）	計																																			
H28年度	2名（0.1%）	0.5%	21名（1.7%）	3.5%	23名（0.8%）																																			
H29年度	1名（0.04%）	0.5%	28名（2.5%）	3.0%	29名（0.9%）																																			
H30年度	5名（0.2%）	0.6%	24名（2.2%）	3.3%	29名（0.9%）																																			
R01年度	4名（0.2%）	0.7%	24名（2.3%）	4.0%	28名（0.9%）																																			
R02年度	7名（0.3%）		24名（2.3%）		31名（1.0%）																																			
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 訪問型の対応で、学校不適應児童生徒に細やかに対応できている。また、平成29年8月に千々石庁舎2階に設置した児童生徒サポートセンター相談室の活用も継続している。 全小・中学校への事業説明を毎年丁寧に行い、少しでも支援の必要な児童生徒への素早い対応ができるよう態勢を整えている。 																																							
自己評価	B	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>																																						
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から実施している児童生徒サポートセンター相談室利用生徒等による交流活動を継続する。また、不登校児童生徒及びその保護者を対象とした講演会等の紹介など、幅広い対応を実践する。 学校や関係機関と連携し、学校不適應児童生徒への早期対応を徹底していく。 																																							

基本方針	学校教育の充実	主要施策 7	国際理解教育の推進															
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、新学習指導要領実施に伴う外国語学習へのスムーズな移行を図る。 ・中学校においては、県学力調査（英語）の県平均正答率を上回る。 【県学力調査（中3英語）（H27）県比-4.8 → （R2）県平均】																	
2年度の取組状況	<p>○ALT配置事業 児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上をめざすとともに、豊かな国際性を身に付けさせるために、外国語指導の補助等を行う外国語指導助手（ALT）のさらなる効果的な活用を図る。</p> <p>【配置状況】 全小中学校を地域ごとに7ブロックに分け、7名のALTを拠点校（全中学校）に配置し、全小学校へ派遣した。R2年9月からは2名のみでの配置となっている。 （新型コロナウイルス感染症に係る入国制限により、新規ALTが入国できないため）</p> <p>【授業での活用状況】※令和2年度分（各学級週1時間の時の時数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3・4・5・6年生外国語活動（17校） ALT活用標準授業時数 2,345時間（※ALT不在のため実質1,406時間） ・中学校英語（7校） ALT活用標準授業時数 1,260時間（※ALT不在のため実質722時間） <p>○英語教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教育研究会外国語部会で市内外国語教育の課題とその改善について指導を行った。 <p>*県学力調査結果（中3英語）</p> <table border="1" data-bbox="284 1218 844 1408"> <thead> <tr> <th colspan="2">3年間の推移</th> <th>県平均との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>40.2</td> <td>-3.8</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>49.2</td> <td>-3.9</td> </tr> <tr> <td>H31年度</td> <td>(調査なし)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>43.6</td> <td>-4.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>全国（英語） 雲仙市 52.2（国より-3.8）</p>			3年間の推移		県平均との差	H29年度	40.2	-3.8	H30年度	49.2	-3.9	H31年度	(調査なし)		令和2年度	43.6	-4.6
3年間の推移		県平均との差																
H29年度	40.2	-3.8																
H30年度	49.2	-3.9																
H31年度	(調査なし)																	
令和2年度	43.6	-4.6																
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT配置事業については、各中学校への配置により、全小中学校での外国語教育の充実につながっている。児童が早期から英語の音声に慣れ親しむことで、英語によるコミュニケーション能力の向上が期待できる。中学校においては、授業を英語で進めるなど、授業自体をコミュニケーションの場となるような環境づくりができています。 ・生徒の英語力向上、外国語教育における小・中連携、英語担当教員の指導力向上などが課題である。 																	
自己評価	C A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂学習指導要領により、外国語教育の早期化と高度化が図られる中、上記の取組等をとおり、教職員の外国語教育への意識は向上している。 ・毎年行われる英語教育実施状況調査で課題としてあげられる小中連携については、外国語教育の系統性をもたせ、効率化を図るためにも、中学校区ごとに実施するように指導していく必要がある。 ・R3から英語力向上推進事業（中学生英語暗唱大会）を開催する。 																	

基本方針	学校教育の充実	主要施策 8	安全・安心な学校給食の提供と食育の推進																
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全小・中学校の全学年で栄養教諭による食育授業と給食指導を実施する。 食育指導を充実させ、給食の残菜量を減らす。 【給食残菜量（H26） 277.1kg/月 → （R2） 50.0kg/月】 平成29年度までに、2つの学校給食センターへ統合する。 																		
2年度の取組状況	<p>○食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育の日（毎月19日）や食育月間（6月1日～6月30日）を各校に周知し、学校教育活動全体を通じた食育を推進した。 学校給食研究会（栄養士部会）の研修や雲仙市食育ブロック推進会議を開催し、学校での児童生徒のアレルギー疾患に対する取組及び情報交換、協議を行った。 <p>○学校給食センター施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年9月1日に3学校給食センターを2学校給食センターに統合し、統合後の学校給食センター運営をスムーズに進めることができた。 <p>○学校給食実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 2給食センターで、雲仙市内すべての小・中学校（小学校17校・中学校7校）に完全給食を実施した。 給食実施回数：週5日（米飯4回、パン1回） 年間：小学校196日、中学校195日 給食実施数：小学校2,143人、中学校1,041人、教職員426人、給食センター62人 合計3,672人 給食費：小学校月額4,300円（1食単価240円） 中学校月額5,000円（1食単価280円） <p>*給食残菜量</p> <table border="1" data-bbox="284 1413 1394 1585"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>126.6kg/月</td> <td>11.9kg/月</td> <td>138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>138.4kg/月</td> <td>21.7kg/月</td> <td>160.1kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>120.1kg/月</td> <td>37.5kg/月</td> <td>157.6kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）</td> </tr> </tbody> </table>			年度	小学校	中学校	全体	H30	126.6kg/月	11.9kg/月	138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）	R1	138.4kg/月	21.7kg/月	160.1kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）	R2	120.1kg/月	37.5kg/月	157.6kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）
年度	小学校	中学校	全体																
H30	126.6kg/月	11.9kg/月	138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）																
R1	138.4kg/月	21.7kg/月	160.1kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）																
R2	120.1kg/月	37.5kg/月	157.6kg/月（児童生徒一人当たり44g/月）																
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校での児童生徒のアレルギー疾患に対する取組及び感染性胃腸炎（ノロウイルス）対応マニュアル、異物混入・食中毒マニュアルを再点検し、各小・中学校に配布した。 平成29年9月1日に、3学校給食センターを2学校給食センターに統合し、統合後の学校給食センター運営をスムーズに進めることができた。 給食残菜量については、管理職研修会等で市内の現状を説明するとともに、食育指導との関連を考慮しながら各学校で削減に取り組むよう指導した。 																		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 2つの学校給食センター（南部・国見）で完全給食を実施していく。 朝食を欠食する児童生徒の減少に取り組む。 長崎県食物アレルギー管理システムの導入について研究していく。 																		

(3) 生涯学習の推進

点検評価シート

担当課 生涯学習課

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 1	青少年の健全育成の推進																												
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 市内各地区で「少年の主張大会」や「見守り活動」等の活動を展開し、青少年健全育成活動の大切さや「ココロねっこ運動」、「家庭の日」の周知を図る。 小中学校入学説明会・雲仙市青少年健全育成協議会・保育園等でメディアの安全指導に関する講演会や指導講習会を開催し、正しい利用の仕方の啓発を進める。 <p>【(H26) 4回→(R2) 目標35回】</p>																														
2年度の取組状況	<p>○「少年の主張大会の開催」 「少年の主張大会」を、市及び各地区において開催した。</p> <table border="0"> <tr> <td>・「市少年の主張 吾妻地区大会」</td> <td>10月23日</td> <td>吾妻町ふるさと会館</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>・「愛野町少年の主張大会」</td> <td>11月21日</td> <td>愛野小体育館</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>・「市少年の主張 小浜大会」</td> <td>10月24日</td> <td>小浜公会堂</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>・「千々石町少年の主張大会」</td> <td>11月7日</td> <td>千々石町公民館</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>・「少年の主張 南串山大会」</td> <td>10月10日</td> <td>ハマユリックスホール</td> <td>実施</td> </tr> <tr> <td>・「市少年の主張大会」</td> <td>12月5日</td> <td>瑞穂町公民館</td> <td>実施</td> </tr> <tr> <td>・「国見町青少年の主張大会」</td> <td>2月7日</td> <td>国見町文化会館</td> <td>中止</td> </tr> </table> <p>○「ココロねっこ運動」「家庭の日」の啓発・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント、大会での周知のほか、各町『公民館だより』による広報活動を行った。 家庭教育7か条のクリアファイルを市内園児の保護者へ配布し啓発活動を行った。 <p>○メディア機器の安全使用に係る啓発</p> <p>メディアにかかる事件事故、健康被害等を未然に防ぎ、メディアを安全快適に活用する社会を形成するため、メディア安全指導を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立小・中学校の新入学児童生徒保護者説明会時にメディア安全講話開催 24回 PTAなどを対象としたメディア安全講話の実施（YouTube動画収録による配信） 1回 PTAと協働したメディア安全啓発にかかる市統一ルールリーフレットの配布 <p>○立入調査や白ポスト設置による有害環境への適切な対応</p> <p>立入調査については、年2回、市内コンビニエンスストア・ドラッグストア、携帯ショップ等への調査を行った。</p> <p>7月…13箇所（「青少年の非行・被害防止全国強調月間」「ココロねっこ運動強調月間」） 11月14箇所（「子ども・若者育成支援強調月間」）</p>			・「市少年の主張 吾妻地区大会」	10月23日	吾妻町ふるさと会館	中止	・「愛野町少年の主張大会」	11月21日	愛野小体育館	中止	・「市少年の主張 小浜大会」	10月24日	小浜公会堂	中止	・「千々石町少年の主張大会」	11月7日	千々石町公民館	中止	・「少年の主張 南串山大会」	10月10日	ハマユリックスホール	実施	・「市少年の主張大会」	12月5日	瑞穂町公民館	実施	・「国見町青少年の主張大会」	2月7日	国見町文化会館	中止
・「市少年の主張 吾妻地区大会」	10月23日	吾妻町ふるさと会館	中止																												
・「愛野町少年の主張大会」	11月21日	愛野小体育館	中止																												
・「市少年の主張 小浜大会」	10月24日	小浜公会堂	中止																												
・「千々石町少年の主張大会」	11月7日	千々石町公民館	中止																												
・「少年の主張 南串山大会」	10月10日	ハマユリックスホール	実施																												
・「市少年の主張大会」	12月5日	瑞穂町公民館	実施																												
・「国見町青少年の主張大会」	2月7日	国見町文化会館	中止																												
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 青少協と子ども会の支部組織統合のための協議を行った。 「ココロねっこ運動」や「家庭の日」の啓発、推進については、広報紙での周知の他、公民館だよりに毎号掲載するなど周知に努めた。少年の主張大会は、一部実施した。家庭教育7か条啓発のためクリアファイルを幼、保育園、新小1へ配布した。 メディア接触やメディア所持の低年齢化の現状を受け、子どもを取り巻くメディア環境への安全指導を実施した。今後は幼年期保護者も対象に広げ実施していく必要がある。 																														
自己評価	B	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>																													
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「雲仙市青少年・子ども育成会議」における、市青少協、市子連を統合し、子どもたちの育成に取り組み、地域の教育力を高める。 市PTA連合会と協力し、子どもたちのメディア機器へのかかわりに関する実態調査の結果を踏まえ、課題に即した啓発活動を行う。 																														

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 2	読書環境の充実
達成目標	<p>・全市民に年1度は図書館（室）を利用してもらうことを目標に、令和2年までに図書館等の利用者数、貸出冊数を増やす。</p> <p>【利用者数 (H26) 40,347人 → 目標 (R2) 47,000人】</p> <p>【貸出冊数 (H26) 178,791冊 → 目標 (R2) 235,000冊】</p>		
2年度 の取組 状況	<p>○読書推進イベント 「読書週間」「子どもの読書の日」等の機会を捉えて、読書スタンプラリー等のイベントを企画し、読書啓発活動を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会（各地区、毎月） ・4月23日～5月12日 こどもの読書週間イベント（図書館・各図書室） ・7月20日小浜図書室開館 ・8月20日夏休み子ども教室（雲仙市図書館） ・10月27日～11月9日 読書週間イベント（図書館・各図書室） ・11月21～22日図書館まつり「図書ボランティア養成講座」ほか（雲仙市図書館） ・11月28日 愛野図書室1周年記念イベント（愛野図書室） <p>○赤ちゃんとはじめての絵本応援事業 赤ちゃん相談の際、市民ボランティアを通して絵本等を手渡す「ブックスタート」活動により、市民の子育て支援や子どもの読書活動の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート（赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを持つきっかけ作り） ・ブックスタート・パック（絵本・バッグ・おすすめ絵本リスト等）配布数232人 ・乳幼児を対象としたおはなし会実施（雲仙市図書館、愛野図書室、小浜図書室） <p>*図書館（室）の利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書数 212,397冊 ・貸出冊数 176,420冊 ・利用者数 34,651人 ・図書購入数 9,684冊 ・移動図書 52箇所 <p>○図書館キャラクターの活用 雲仙市図書館キャラクター「ラブックン」を広報やイベント景品に積極的に活用し、親しみやすい図書館づくりに努めた。</p>		
評価 検証 及び 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策を講じながら、読書推進イベントを開催し、読書活動の推進に努めた。コロナ感染症感染拡大による利用制限等の影響から利用者数、貸出冊数が減少した。 ・スマートフォン等の普及により活字離れが進むことが予想されることから、蔵書の充実と情報発信に努め、各種企画を通じて読書に関する理解や関心を高めていく必要がある。 ・小浜図書室の開館にあたっては、地元の小・中学校と児童生徒が安全に利用できるような利用方法について協議をした。 		
自己 評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度 以降の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と各公民館図書室の連携強化を進め、さらに「家読（うちどく）」の推進や移動図書館車の有効な活用を研究し、市民の誰もが本とふれあうことができる機会を提供する。 ・地域の特色を生かし、ボランティアとともに時節に応じた展示や企画に取り組む。 		

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 3	多様な生涯学習プログラムの実施
達成目標	<p>・市民のニーズに即した多くの講座を開催し、参加者の増加を図る。</p> <p>【(H26) 162講座→目標 (R2) 180講座】</p> <p>【(H26) 4,326人→目標 (R2) 4,500人】</p>		
2年度の取組状況	<p>○市民講座の実施 全98講座、延べ1,899人参加</p> <p>各駐在、公民館において学びの実践の場を提供する各種の講座や教室を実施し、参加者にアンケートを実施し、講座の評価、ニーズ調査を行い、今後の講座企画の参考している。</p> <p>【対象別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般成人 57講座 ・「いきいき健康セミナー」ほか ・小中学生 23講座 ・「夏休み子ども教室」ほか ・高齢者 4講座 ・「やさしいスマホ教室」、「認知症予防教室」ほか ・幼児・親子 4講座 ・「おもちゃドクターがやってくる」ほか ・その他 10講座 ・「韓国文化講座」ほか <p>【ジャンル別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活・教養 23講座 ・「暮らしに活かす筆ペン教室～美文字体験～」ほか ・趣味 15講座 ・「体験！すてきな友禅染め」ほか ・健康・レク 9講座 ・「いきいき健康セミナー」ほか ・市民意識 5講座 ・「防災講座」ほか ・子育て 7講座 ・「夏休みの工作教室」ほか ・読書推進 8講座 ・「お花見おはなし会」ほか ・国際理解 11講座 ・「ケリー先生と、英語で遊ぼう！」ほか ・環境・エコ 8講座 ・「火山実験&偏光板でステンドグラス」ほか ・郷土料理 11講座 ・「ほんわかと、まんじゅう作り」ほか ・平和 1講座 ・「平和へのあゆみ～原爆パネル展～」 <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報うんぜん、市ホームページ、自治会回覧「公民館だより」、無線放送 等 		
評価検証及び課題	<p>・市民ニーズの把握と多様な講座の企画実施に努め参加者の満足度も評価は高かったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座の企画ができず、また、企画したもののやむなく中止となり、例年より大きく講座数、参加者数とも減少した。</p> <p>・引き続き魅力ある講座の企画や周知方法の工夫に努める必要がある。</p>		
自己評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<p>・地域が抱える課題にアプローチする地域課題解決型の公民館講座の企画を進め、WEBによる受講申込受付を導入し、参加者に対し生涯学習の喜びや楽しみを体験してもらうことで、自主的な活動へと導く。</p>		

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 4	人権啓発活動の推進												
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの人が集まる各種の大会やイベント等の開催時に、人権講演会の開催、チラシの配布等を行い、多くの人に人権について考える機会を設ける。 														
2年度の取組状況	<p>○令和2年度雲仙市人権講演会「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」 市内小・中学校において、4講演を実施した。（市主催県補助金活用事業） （対象者：各校児童・生徒、教職員、保護者等）</p> <p><開催校・参加者・開催日></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：西郷小学校</td> <td>102名</td> <td>令和2年12月4日（午前）</td> </tr> <tr> <td>第2回：瑞穂中学校</td> <td>105名</td> <td>令和2年12月4日（午後）</td> </tr> <tr> <td>第3回：愛野中学校</td> <td>191名</td> <td>令和2年12月8日（午後）</td> </tr> <tr> <td>第4回：八斗木小学校</td> <td>70名</td> <td>令和2年12月9日（午後）</td> </tr> </table> <p><効果検証結果等></p> <ul style="list-style-type: none"> • 講演会では、講話、演奏、ワークショップを実施し、効果検証のため、参加児童・生徒からお礼の手紙や感じたことを書いてもらった。 • 小学生は、いじめを受けることの辛い思いを知り、また、障がいがあってもいきいき生活し、活躍される様子から、夢を持ち努力することの大切さを感じている。中学生においては、さらに理解を深め、人権尊重の実践につなげていく気持ちをもって、具体的な取り組み目標を作成している。 • 本市を拠点に活躍する知的障がいを持つ和太鼓集団「瑞宝太鼓」を講師に招くことで参加者がより身近に障がいのある方への理解を深めたり、それぞれの立場で一生懸命取り組むことの大切さを感じさせることができ、本講演会が人権啓発事業として効果があったものと認められる。 <p>○市民講座において、女性参画社会における人権をテーマに講座に取り組んだ。（1回）</p>			第1回：西郷小学校	102名	令和2年12月4日（午前）	第2回：瑞穂中学校	105名	令和2年12月4日（午後）	第3回：愛野中学校	191名	令和2年12月8日（午後）	第4回：八斗木小学校	70名	令和2年12月9日（午後）
第1回：西郷小学校	102名	令和2年12月4日（午前）													
第2回：瑞穂中学校	105名	令和2年12月4日（午後）													
第3回：愛野中学校	191名	令和2年12月8日（午後）													
第4回：八斗木小学校	70名	令和2年12月9日（午後）													
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> • 講演会では、参加児童・生徒からお礼の手紙等が多く寄せられ、その内容から障がいがある方への理解が深まっていることが確認できた。 • 市民が関心を持ちやすい内容やテーマを考慮し、人権啓発に取り組む必要がある。 														
自己評価	<p>B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>														
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> • 令和3年度に長崎県人権教育研究大会が雲仙市でオンライン開催されるのに伴い、広報紙、ホームページ等で広く市民へ呼びかけ視聴いただく。 • より多くの市民に人権意識の周知を図ることを目的に、人権週間（12月）にあわせて広報紙に特集を組むなど人権教育を推進する。 														

(4) 文化芸術の振興と歴史の継承

点検評価シート

担当課 生涯学習課

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 1	文化芸術活動の推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした文化芸術体験事業及びアウトリーチ事業を開催する。 雲仙市文化連盟を構成する各町文化協会及び雲仙市文化会館自主文化事業振興会を支援し、市民ニーズに応じた市民主体の文化活動の向上を図る。 市内在住の文化芸術における、専門家の発掘及びネットワーク形成を図る。 		
2年度の取組状況	<p>○ 子どもを対象とした文化芸術体験事業（文化庁補助事業） 文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多比良小学校 12月8日(火) 児童劇 参加者 172人 <p>○ 市民主体の文化活動 市民の活発な芸術文化活動を推進するため、雲仙市文化連盟が中心となり、市美術展覧会を開催した。市民音楽祭は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第14回雲仙市民音楽祭 (中止) 第15回雲仙市民美術展覧会 2月11日(木)～14(日) (愛の夢未来センター) 520名 <p>○ 雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業 市民のニーズにあった文化芸術鑑賞機会を充実させるため、雲仙市文化会館自主文化事業振興会による自主文化事業を開催したが、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、3事業を中止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内ミュージシャンによる 8月22日(土) (ハマユリックスホール) 来場者31人 ロビーコンサート わが青春の歌コンサート 9月19日(土) (吾妻ふるさと会館) 来場者167人 まほろばブルース&ジャズコンサート 12月12日(土) (国見町文化会館) 来場者81人 		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 「文化芸術による子どもの育成事業」を活用し、子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供した。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、企画を進めていたが中止となった事業があり、例年と比較して来場者数も大きく減少した。 雲仙市文化連盟の組織強化や会員相互の交流活性化を引き続き図っていく必要がある。地域課題解決につながる文化事業や組織の在り方について検討していきたい。 		
自己評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 自主文化事業をはじめ、雲仙市文化連盟による市民音楽祭や市美術展覧会を開催する。 雲仙市文化連盟、雲仙市文化会館自主文化事業振興会の、自立した組織の在り方を検討する。 		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 2	伝統的建造物群保存地区事業の推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修理修景事業を推進し、伝統的まちなみ景観の整備を図る。 ・ 緋寒桜の郷まつり等、市民と連携したイベントを開催し、まちなみを活用した地域活性化を推進する。 ・ 防災計画に基づく消火設備及び自主防災組織の充実を図る。 		
2年度の取組状況	<p>○修理修景事業の推進 まちなみ景観の向上を図る為の修理事業及び次年度実施の為の協議、設計を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修理事業（直接事業） 1件（3,239千円） ・ 修理修景事業（民間補助） 2件（17,627千円） ・ 次年度以降実施の為の協議、測量設計 民間事業 2件、直営事業 1件 ・ 国見展示館前倉庫解体（1,921千円） ・ 県警官舎跡地購入（11,500千円） <p>○生垣剪定の実施 景観の重要構成要素である生垣の剪定奨励に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施件数34件（386千円） <p>○市民と連携したイベント開催 緋寒桜の郷まつりについては、新型コロナウイルス蔓延防止のため中止された。 （主催者である実行委員会により決定）</p> <p>○防災に強いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会避難訓練合同易操作消火栓放水訓練の実施 1回（6月21日） <p>○空き家対策 地区内の空家について、NPO等と連携し、説明及び紹介等を行った。</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修理修景事業について、広報誌発行による啓発や相談を通じて実施を働きかけた。 ・ 修理修景事業については、地域全体のニーズ等を把握し、年次的な計画を作成し、計画的に実施していく必要がある。 ・ 保存地区は木造の建造物群であり、火災による消失を防ぐ必要があることから防災施設整備の実施や、自主防災組織の活動充実に取り組んでいく必要がある。 ・ 地域住民の高齢化とともに、空き家の増加が懸念されNPO等による空き家対策の活動を支援し対策を講じる必要がある。 		
自己評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民との小まめな相談を行い、修理修景を通して文化財の保存と景観の維持を図る。 ・ 市民団体に参画して緋寒桜の郷まつりを開催し、文化財の公開と地域活性化に努める。 ・ 保存会及びNPO法人と連携し空き家所有者との相談を行い、空き家の解消を図る。 		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 3	重要文化財 旧鍋島家住宅の公開活用
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 保存活用計画に基づいた管理運営と施設環境の整備を行い、重要文化財の保存を図る。 市内の多様なイベントや企画との連携により、施設の有効活用と集客を推進し文化財の公開活用を推進する。 		
2年度の取組状況	<p>○入場者数 施設の公開 ・入場者数 4,656名 ※令和元年度 6,133名</p> <p>○企画事業の実施 ・市主催 収蔵史料の掛け軸や古文書を国見展示館の企画展として展示した。 緋寒桜の郷まつりは中止となったが、緋寒桜開花時期には2,868名の集客があった。 緋寒桜開花時期にはガイドを配置し、鍋島邸や伝建地区の説明を行った。</p> <p>○環境維持 季節に合わせた樹木の剪定管理や除草作業を行い、環境の維持に努めた。 ・緋寒桜の樹勢回復措置 (275千円) ・剪定及び除草実施回数 17回(1,965千円)</p> <p>鍋島邸の適正な維持管理のための修繕及び測量設計等を行った。 ・中庭池修理工事及び技術指導 (3,617千円) ・庭園南側板塀修理 (447千円) ・裏門修理 (193千円)</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 建物、庭園の適切な管理に努め、文化財の保存と公開活用に努めた。 主屋部分の老朽化に伴う入館者用入口の建具不具合等が出ており、主屋の修理時期等について、国・県と協議する必要がある。 庭園管理について、樹木毎の剪定管理ではなく、庭園全体として指定管理を含めた適切な管理を検討する必要がある。 鍋島邸の入場者数の約8割が緋寒桜の開花時期に集中しており、気候の変化により開花が遅れると観光客が減少するなど自然の影響が大きい。 		
自己評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な修理に備え事前調査を行い、国県との相談を行う。 庭園等環境維持について指定管理者制度を検討する。天然記念物の緋寒桜は県樹木医会に委託し通年管理を行う。 鍋島邸ガイドの充実のため、ガイド講座を開き後継者育成に努めるとともに、内容の統一を図る。 		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 4	伝統文化の継承
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と連携した郷土芸能の実施状況と課題の把握を行い、郷土芸能を絶やすことのないよう支援を行う。 		
2年度の取組状況	<p>○伝統文化の継承 市内のハタ保存会の活動支援を実施し、保存会による小学生へのハタづくりの指導やハタあげ（会員のみ）を実施した。 愛のまち剣舞箏保存会（50千円）、吾妻町はた保存会（50千円）</p> <p>○子ども対象の伝統文化体験 地域子ども教室として、公民館などで各種の子ども対象教室を実施しており、茶道、民謡、囲碁、将棋などの伝統文化に親しむ機会を設けた。 ・囲碁 35回 ・将棋 31回 ・茶道 30回 ・民謡 44回</p> <p>○郷土芸能団体の育成 郷土芸能は、各地域の歴史や風土の中で、人々の生活の中で育まれてきたもので、豊作や豊漁、厄払いなど地域の生業や文化に根ざしたものが多く、今般の職種や勤務体系が複雑化した社会においては継承が難しくなっていると思われる。</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ハタ保存会の活動支援を行い、ハタ作り体験や、ハタあげを実施していただいたが、新規会員の加入があったものの、会員の高齢化、後継者不足が課題となりつつある。 郷土芸能団体は、自治会等の組織で継承が位置づけられるなど保存体制が確立しているもの以外は、継承が困難になりつつある。今後、保存継承方法について見直しが必要である。 		
自己評価	E	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 市内ハタ保存会の活動支援を行い、伝統文化の継承と、ハタあげにふれあう機会をつくる。 放課後子ども教室等において、地域指導者の協力を得て伝統文化に親しむ機会を設ける。 保存継承が困難な郷土芸能については、映像など記録保存に努める。 		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 5	文化財保護啓発の推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財の追加指定を行う。【(H26) 47件 → (R2) 目標55件】 ・歴史講座等を定期的に行う。【(H26) 5件 → (R2) 目標10件】 		
2年度の取組状況	<p>○文化財の保護活動 指定文化財などの巡視、清掃、補修、生息調査を行い保護に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動 2箇所（鬼の岩屋、五万長者屋敷跡） ・オキチモズク生息確認(国見) 4回 ・文化財看板、標柱の修理 2件（山田城跡ほか） <p>特別名勝温泉岳、伝統的建造物群保存地区、埋蔵文化財等文化財の現状変更行為に対する許可申請手続きの啓発を行った。 市広報誌 3回 ホームページ掲載</p> <p>○歴史講座の開催 市民講座と連携し、歴史講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文書読み方講座 6回 南串山の歴史講座 1回 		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財を維持していくため、必要な清掃等や調査を行った。 ・古文書を活用し、歴史に触れてもらうため古文書の読み方講座を開催した。今後も郷土の歴史など市民の関心の高いテーマで学習機会を提供する必要がある。 		
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市内文化財に関する講座を開催するとともに、座学だけでなく現地見学を行うなど体験型の講座も開催するよう努める。 ・指定文化財の定期的な巡視と観察を行い、適切な保護活動に努める。 		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 6	埋蔵文化財の保存活用
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 農業基盤整備事業に伴う発掘調査事業を完遂する。 雲仙市歴史資料館における発掘調査成果の公開・活用を図る。 【国見展示館入館者数 (H26) 3,099名 → (R2) 目標 3,500名】		
2年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○国見地区基盤整備事業に伴う中高野遺跡・赤原遺跡発掘調査(2,860㎡) 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。(31,699千円) ・旧石器時代の台形石器や縄文時代晩期ごろの土器石器が発見された。長期間にわたり集落が存在していた様子が判明した。 ○吾妻地区基盤整備事業に伴う西頭遺跡発掘調査(2,100㎡) 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。(17,578千円) ・約1万年前の縄文時代早期の土器石器が大量に発見された。島原市一野(ひとの)遺跡で見つかった土器(一野式土器)が出土しており、当時の人々の交流の様子よくわかる。 ○愛野地区基盤整備事業に伴う火箱遺跡・展望台遺跡発掘調査(2,350㎡) 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。(33,249千円) ・弥生時代の環濠や奈良・平安時代の住居跡などが発見された。旧石器時代の石器も発見されており、長期間にわたり集落が存在していたことが確認された。 ○南串山地区基盤整備事業に伴う登建峠遺跡発掘調査(438㎡) 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。(7,504千円) ・縄文時代晩期の土器石器が発見された。植物の網目の跡が残る「組織痕(ソシコソ)土器」も発見されており、小浜町朝日山遺跡などとの共通性が見られる。 ○市内遺跡発掘調査 市内の各種開発事業に伴い遺跡の内容確認(試掘)調査を実施した。(17件) ・防火水槽整備や個人住宅・アパート建設、基盤整備事業の施工前に、事前の確認調査を実施し、調査の結果に合わせて、文化財の保護を講じるよう指導を行った。 ○守山大塚古墳レーダー調査 ・県内最古最大級の前方後円墳である、吾妻町守山大塚古墳の保護のため、掘削を伴わない地中レーダ探査調査を実施した。古墳前方部の痕跡と考えられる構造物が確認された。令和4年度まで継続して行う予定である。 ○国見展示館企画展等 ・企画展を開催した。 10～12月 神代鍋島家所蔵品展・1～3月 発掘された島原半島展 852名 ・国見展示館入館者数 R2実績 1,119名 (R1実績 1,018名) ・夏休み講座 まが玉づくり 2地域 3回 37名参加 ・社会科見学 小中学校 5校 133名 		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県営基盤整備事業に伴う発掘調査については計画通り進めることができた。今後も整備事業が計画されており、島原振興局及び市農漁村整備課、各地元土地改良区と連携し、埋蔵文化財の保護に取り組む必要がある。 ・守山大塚古墳レーダー調査により、古墳周囲の地下に古墳の基礎部分が残されていることが判明し、今後の古墳の保存・活用にかける調査となった。 ・国見展示館等市内資料館・展示館において、発掘調査成果の企画展等計画し、今後も市内文化財の周知を図っていく必要がある。 		
自己評価	B	A: 計画を上回って進捗 B: 計画どおり進捗 C: 一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D: 計画が全体的に遅れ E: 計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う発掘調査及び報告書の作成、現地説明会などを行い、調査成果の活用を図る。 ・国見展示館等での企画展等を通して、調査成果の周知と歴史学習に寄与する。 ・文化財保護啓発冊子の作成を行い、文化財保護に取り組む。 		

(5) スポーツの振興

点検評価シート

担当課 スポーツ振興課

基本方針	スポーツの振興	主要施策 1	運動・スポーツ活動の日常化の推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ人口増加のための教室・大会を毎年実施し、成人の週一回以上のスポーツ実施率を高める。 【※長崎県目標 (H32) 65%】 ・スポーツ施設の利用者数の増大を目指す。 【年間利用者数 (H28・総合計画目標) 382,000人→(H32) 385,000人】 		
2年度 の取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 軽スポーツ団体の支援 雲仙市レクリエーション協会及びがまだすスポーツクラブの活動を指導・支援を行い、組織の拡充・活動の充実を図った。 【雲仙市レクリエーション協会】 補助金：400千円 <ul style="list-style-type: none"> ・10月18日 県民スポレク祭2020「雲仙アヅマクロス大会」 参加者：74名 (34チーム) ・11月22日 第12回雲仙市民ウォーキング大会 会場：愛野町 参加者：102名 ・3月7日 第2回雲仙市民ペタンク大会 参加者：54名 (20チーム) ・3月21日 第13回雲仙市民ウォーキング大会 会場：諏訪の池 参加者：122名 ※構成団体数：5団体 構成人数：184人 【がまだすスポーツクラブ】 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室 10教室開催 総計166名 ・11月15日 スポーツフェスティバル開催 4種目 376名参加 ※ソフトバレー教室交流大会は新型コロナの影響により中止 ○ スポーツ教室等の実施 市民に対し、運動機会の提供・紹介のための軽スポーツ等の教室を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・水泳教室の開催 (初心者7/11～8/29 39名、中級・上級7/12～8/30 31名) ・陸上教室の開催 (9/9～9/23 小学生3年～6年生 参加者：36名) ・ヘルスアップ教室の開催 (11/4～11/25 一般成人 参加者：29名) ○ レクリエーション&スポーツフェスタの開催 子どもから高齢者まで誰もが参加できるレクリエーション&スポーツフェスタの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日時：10月18日 13:00～16:00 ・会場：吾妻体育館 ・参加者：96人 <p>※ スポーツ施設年間利用者数 R2 251,206人</p>		
評価 検証 及び 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・軽スポーツ団体の支援については、計画どおり進捗している。新型コロナウイルスの影響も心配されたが、市民ウォーキング大会等への参加者も多く、日常的にスポーツに取り組む人が増加している。 ・スポーツ教室については、水泳教室、陸上教室、ヘルスアップ教室を開催し、クラブ活動をしていない児童や運動不足の成人も参加したことで、運動をする機会の提供ができた。 ・市民運動会については、次回開催は、令和4年度となっていることから、内容等の検討を随時行う予定。 		
自己 評価	B	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度 以降の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民が多く参加できる軽スポーツ大会等の取組みを行う。 ・ラジオ体操の推進については、一般市民を対象にイベント等の開催を実施するとともに各種大会や企業などでラジオ体操を取り入れるよう推進を行う。 		

基本方針	スポーツの振興	主要施策 2	スポーツの競技力向上																				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上を目指す雲仙市体育協会（R3年4月から「雲仙市スポーツ協会」に改称）の活動を支援する。 ・優秀選手の育成のための奨励事業を行う。 																						
2年度の取組状況	<p>○ 体育協会の運営支援 市民スポーツ大会をはじめとする市民の各種競技会の開催、ジュニアスポーツの競技力向上や競技人口の拡大のための講習会や教室を行う雲仙市体育協会の活動支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲仙市体育協会補助金（競技団体活動助成金）の執行状況把握と指導を行う。 体育協会加盟団体 19競技団体（1,520人） 補助金 11,945千円 各種スポーツ大会等の開催 市内全域の大会 23大会 各地区単位の大会 3大会 教室開催 2教室 ・市民スポーツ大会開催支援 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・R2.11 県民体育大会へ派遣するため、市体育協会を通して出場に係る経費の一部を助成する。 8競技 211名 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施されない種目があった。) <p>○ 補助金等による経済的支援 優秀な成績で上位大会へ出場する選手や団体に対し経費の一部を助成し、負担の軽減と向上意識の高揚を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の代表として、県大会（小・中学生のみ）、九州大会、西日本大会及び全国大会に出場した者に対し、激励費を交付した。 件数 : 43件（延べ381人） 2,021千円 <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>交付基準額</td> <td>①県大会（県央）</td> <td>1,000円</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②県大会（県北）</td> <td>3,000円</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③九州大会及び西日本大会</td> <td>10,000円</td> <td>18件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④全国大会</td> <td>20,000円</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤国際大会</td> <td>30,000円</td> <td>0件</td> </tr> </table>			交付基準額	①県大会（県央）	1,000円	11件		②県大会（県北）	3,000円	6件		③九州大会及び西日本大会	10,000円	18件		④全国大会	20,000円	8件		⑤国際大会	30,000円	0件
交付基準額	①県大会（県央）	1,000円	11件																				
	②県大会（県北）	3,000円	6件																				
	③九州大会及び西日本大会	10,000円	18件																				
	④全国大会	20,000円	8件																				
	⑤国際大会	30,000円	0件																				
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会の運営支援については、計画どおり進捗しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から各種大会等が中止なり、思ったような活動ができなかった。また、各競技団体の構成員が減少傾向にあることから、構成員減少の対策を行う必要がある。 ・補助金等による経済的支援については、計画どおり進捗しているが、新型コロナウイルスの影響により上位大会が開催されない競技も多く、例年と比べ、申請が大きく減少した。 																						
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																					
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会の運営支援を行うとともに、各競技団体の構成員数が減少傾向にあることから、各競技団体が行う大会及び教室開催等の活動を支援し、スポーツ人口の増加を図る。 ・競技力の向上並びに優秀選手を育成するために、ジュニアスポーツの推進とスポーツ協会各競技団体等の競技力向上の連携を図りながら、経済的支援を行う。 																						

基本方針	スポーツの振興	主要施策 3	ジュニアスポーツの推進
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの健全なスポーツ活動の普及のため、育成組織の指導・支援と適切な活動環境の整備に努める。 小学生クラブ活動振興会で活動する子どもたちの割合を増やす。 【市内児童（5,6年生）の割合 (H26) 50%→(H32) 55%】 		
2年度の取組状況	<p>○ 振興会等団体に対する活動・運営支援 少年期における健康な身体づくりと、将来のスポーツ活動への意欲を育むため、適切な競技指導とクラブ運営を行う小学生クラブ活動振興会及び部活動振興会に対し、運営のための経費の一部を助成して、その活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の小学生クラブの活動を支援するため、活動費の補助を行った。 団体数 : 51クラブ 構成部員数 : 685人 補助金 2,387千円 中学校部活動振興会（担当課：学校教育課） 団体数 : 7部 構成部員数 : 876人 補助金 3,936千円 <p>○ 指導者・保護者等の研修会の実施 ジュニアスポーツの指導者・保護者等を対象に、例年、スポーツ医・科学基礎講座を年3回開催してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新型コロナウイルスに関する講習を年1回、参加者をしばって開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月17日 新型コロナウイルス感染症対策講習会 会場：愛の夢未来センター 参加者数：33名 <p>※ 小学生クラブ活動振興会で活動する市内児童（5・6年生）の割合 R2 50.3%</p>		
評価検証及び課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学生クラブ活動振興会で活動する市内児童（5・6年生）の割合が昨年度より2.2ポイント減となった。 各クラブ等の毎日の練習時間や休養日の設定を徹底することが課題である。 		
自己評価	C	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>	
次年度以降の取組	<ul style="list-style-type: none"> 指導者・保護者等を対象に研修会を実施し、子どもたちの適切な活動環境の整備に努めるとともに、各クラブの休養日の設定を徹底させる。（指導者の研修会への参加） また、指導者に対し、行き過ぎた指導をしないように講習会を実施したい。 		

基本方針	スポーツの振興	主要施策 4	快適な活動の場の提供																				
達成目標	<p>・スポーツ施設の適正な維持管理に努めるとともに、利用しやすい環境整備に努め、スポーツ施設の利用者数の増大を目指す。</p> <p>【年間利用者数 (H28・総合計画目標) 382,000人→(H32) 385,000人】</p>																						
2年度の取組状況	<p>○ 社会体育施設（設備・備品）の適正な管理運営 市内のスポーツ施設が快適に利用できるよう、適切な維持・管理を実施した。</p> <p>【社会体育施設整備事業】 事業費 21,442千円</p> <p>みずほすこやかランドグラウンドゴルフ場法面補強工事 3,611千円</p> <p>みずほふれあい会館トイレ改修工事 2,932千円</p> <p>愛野運動公園車止め設置工事 726千円</p> <p>愛野武道場柔道畳購入 2,090千円</p> <p>ほか 修繕・委託・工事・備品購入等 12,083千円</p> <p>【新小浜体育館整備事業】 事業費 1,397,597千円</p> <p>雲仙市新小浜体育館（仮称）新築工事請負費 1,386,163千円</p> <p>ほか 旅費・委託料・負担金 11,434千円</p> <p>○ 適切な利用のための予約制度の確立 各種スポーツ活動が円滑に実施されるよう、施設の利用調整や早期予約制度の改良を進めた。</p> <p>R1社会体育施設及び学校開放施設の利用状況</p> <table border="1" data-bbox="264 1088 1211 1240"> <thead> <tr> <th></th> <th>施設数</th> <th>利用件数</th> <th>早期予約申請</th> <th>年間利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会体育施設</td> <td>20</td> <td>14,737</td> <td>549</td> <td>194,129</td> </tr> <tr> <td>学校開放施設</td> <td>25</td> <td>2,543</td> <td>128</td> <td>57,077</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>17,280</td> <td>677</td> <td>251,206</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 指定管理者制度による民間活力の導入 施設をより快適に活用できるよう、また、より高度なサービスが提供できるよう、施設の運営に民間企業のノウハウ等を導入する指定管理者による施設運営を進めた。</p> <p>【国見総合運動公園（遊学の里くにみ）】 指定管理者：特定非営利活動法人V・ファーレン長崎スポーツコミュニティ 指定管理契約期間：平成31年4月1日～令和5年3月31日 指定管理料：31,500千円</p> <p>【リフレッシュセンターおばま】 指定管理者：株式会社サンセットマリン雲仙 指定管理契約期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日 指定管理料：23,390千円</p> <p>※ スポーツ施設年間利用者数 R2 251,206人</p>				施設数	利用件数	早期予約申請	年間利用者数	社会体育施設	20	14,737	549	194,129	学校開放施設	25	2,543	128	57,077	計	45	17,280	677	251,206
		施設数	利用件数	早期予約申請	年間利用者数																		
社会体育施設	20	14,737	549	194,129																			
学校開放施設	25	2,543	128	57,077																			
計	45	17,280	677	251,206																			
評価検証及び課題	<p>・新小浜体育館整備事業については、計画どおり工事を実施した。他社会体育施設については、整備計画に基づき修繕等を適正に行った。</p> <p>瑞穂体育館は、耐震診断の結果、耐震性がないと判断され、耐震補強が不可欠な状況にあることから、改修工事の実施については周辺施設との統廃合も含めて検討する必要がある。</p> <p>・国見総合運動公園及びリフレッシュセンターおばまについては、民間企業のノウハウ等の導入により、快適に施設利用ができるよう施設運営を行った。</p>																						
自己評価	B	<p>A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要</p>																					
次年度以降の取組	<p>・新小浜体育館については、本体工事が予定どおり進むように適切な工事監理に努めるとともに、他の社会体育施設の今後のあり方について、検討を進める。</p> <p>・令和4年春オープン予定の新小浜体育館を中心に大会や合宿等を誘致することにより、スポーツツーリズムの推進を図る。</p>																						

7. 学識経験者の所見

(1) 点検・評価に対する総評

平成28年度に策定された「雲仙市教育振興基本計画」は令和2年度で一旦終了となった。その間、教育委員会及び教育委員会事務局においては、その計画の具現化のために5つの施策の方針とそれに付随する25項目の主要施策を設定し、PDCAサイクルによる積極的な点検、及び真摯な評価を通して年々着実に成果を上げてきたことを高く評価する。

また、平成29年には「第2次雲仙市総合計画」、令和2年には「雲仙市教育大綱」が策定されたのを受け、令和3年4月、教育委員会として「第2期 雲仙市教育振興基本計画」を策定し、この5年間で積み上げてきた成果と課題に継続して取り組もうとする姿に頼もしさを感じる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、例年実施してきた学校訪問や社会教育施設等の視察ができなかったことは残念であったが、毎月1回の定例会や臨時会、総合教育会議等をより一層充実させてきたことで、その責務を十分に果たしている。また、その会議録をネット上にも公開することで、開かれた透明性のある教育委員会であることが一般市民にも理解されてきている。

過去5年間にわたり誠実に、そして厳しく点検と評価を繰り返してきたことに対して頭が下がる思いであるとともに、「第2期 雲仙市教育振興基本計画」への期待も大いに高まる。

(2) 「施策の方針」に係る個別ごとの評価

①教育環境の整備について

市内のほとんどの学校施設は昭和40年代から50年代にかけて建設されているため、現在ではその老朽化に歯止めがかからない状況にある。社会体育施設や社会教育施設においても同様であり、雨漏り、壁の崩落、床板の損傷等、たくさんの修繕を要する場面が予想される。その他にもトイレの洋式化、照明器具の改修、バリアフリーに配慮した環境づくり、耐震化等、課題は山積みである。

本市の教育環境整備に係る厳しい予算配当の中にあって、このような実態を十分に把握し、瑞穂町公民館の整備、新小浜体育館の建設をはじめとして、耐震化を「雲仙市学校施設長寿命化計画」とタイアップして進めたり国庫補助を活用したり等、校舎や屋内運動場の改善箇所の一つ一つに真摯に向き合い改修を計画的に実行している姿は高く評価することができ、児童生徒及び市民の安全・安心な教育環境の整備のために成果を上げていると言える。

また、ICT環境の整備については、小学校、中学校ともにデジタル教科書の導入を完了し、電子黒板関連機器が全小・中学校普通教室及び理科室への配置も終わっている。併せて、LANケーブルが整備され、校内ネットワーク環境が整えられ

ている。これらは他市町に先駆け早い時期から整備を行ってきたことの成果であり高く評価する。今後は小・中学校との連携を深め ICT 機器のさらなる整備に努めていただきたい。

②学校教育の充実について

確かな学力を育成するために、「授業改善のための研究指定事業」、「学力調査事業」を柱として、各種教職員研修会を充実させ、地域や学校、児童生徒の実態に応じた指導を継続して実施している。その成果の一つとして、県学力調査において小学校では国語、算数、理科のすべてにおいて県平均を上回っており、前年度以前においても好結果であった。このことは担当課の系統的、効果的な指導の成果であり、今後も継続した指導をお願いしたい。中学校においては国語、数学、英語のすべての点数が県平均を下回っており、担当課及び教職員の指導が点数に反映されなかったことが残念である。引き続き指導をお願いしたいが、特に英語については、近年、低迷が続いており早急な対応が望まれる。来年度からの取組として「英語力向上推進事業（中学生英語暗唱大会）」が計画されているが、ALT との連携強化とともに日々の授業、研修の充実という点にも指導をお願いしたい。

確かな学力の育成とともに重要なものが「豊かな心を育む教育の推進」である。大塚小学校を研究校に指定し、教職員の指導技術の向上と児童生徒の心を育てる教育を推進している。また、宿泊体験学習や修学旅行を合同で行うなどの小学校間交流学習を長年継続させ、他校児童との心の交流を図るとともに、中1ギャップの解消、保護者の経費負担減にも効果を上げていることは高く評価できる。他にも「いじめを許さない学校」づくりのために研修会を開催したりアンケートを実施したりしている。その結果、いじめ認知件数が増え、そのために早期発見、早期対応ができるようになったことは大きな成果である。また、訪問指導員やスクールソーシャルワーカーによる専門性を生かした対応も大きな力になっている。たくさんの目で児童生徒を育てるという点では「雲仙市子どもの心を見つめる教育週間」も継続していただきたい。「ジオパーク学習」についても郷土の自然の偉大さや美しさを感じる心を育てることにつながるし、災害への対応という点においても重要な取組である。上述した多くの取組を長年継続していることは称賛に値する。

「学校体育の推進」については、新体力テストが新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止になり、令和2年度の結果を見ることはできないが、前年度の課題である「柔軟性の向上」と「バランスの良い体力の向上」についての指導を引き続きお願いしたい。

「健康安全教育の推進」については、すべての小・中学校においてフッ化物洗口が安全実施されており、その成果も少しずつあらわれていることはうれしいことである。気になることは児童生徒の安全・安心な生活の維持という点である。交

通事故が毎年数件発生しているが、その原因として通学路に問題はなかったのか、改めて見直す必要があると思う。また、過去に児童生徒のかけがえのない命が奪われた事件や事故が起きているということから、危険個所の見直し、不審者への対応等、風化させない指導をお願いしたい。南串第一小学校のコミュニティースクール指定は地域との連携を深めた取組として大いに期待している。

「特別支援教育の推進」については、小・中すべての学校にスクールサポーターやスクールカウンセラーを配置し、児童生徒へのきめ細かな指導ができるような体制づくりを積極的に進めている。児童生徒に直接関わる担当者の技量向上のために、より一層充実した研修会の計画的開催について配慮していただきたい。

不登校児童生徒への対応については「児童生徒サポートセンター事業」や「親子ホットライン事業」において訪問指導や面談等を行い、それぞれの実態を把握し支援が必要な児童生徒への素早い対応がとられるような体制づくりができていくことは高く評価する。

③生涯学習の推進について

コロナ禍により事業の中止や変更等が多くあり十分な取組ができなかったことは非常に残念であったろうと推察する。そのような状況の中にあってもすべての市民が生涯を通して学び続けることができる環境づくりのために尽力されてきたことを高く評価する。地区大会は開催できなかったが「市少年の主張大会」を開催したこと、各種イベントや広報紙による「ココロねっこ運動」や「家庭の日」の啓発を継続してきたことはコロナ禍の中にあっても、その時できることを模索しながら取り組んできたことがよく理解できる。メディア機器の安全使用という点については、小・中学校の入学説明会やPTAを対象に安全講話を継続実施しており、青少年の環境浄化のために立入調査や白ポストの回収も続けて行っていることも高く評価したい。

しかし、コロナ禍の今だから提案したいことがある。生涯学習については、対象がすべての市民であり、取り組むべき内容は多岐にわたる。そのため実施している事業の有効性というものが明確になっていないことがあり、例年同じ事業を繰り返すことになってしまい、市民に対して新たな刺激を生む取組になっているのかどうか懸念している。新規事業を開発することは予算獲得や人材の確保等から困難であることは想像できるが、市が設定した生涯学習の目標達成のためにはいろいろなアプローチの仕方があってもいいのではないかと思う。コロナ禍の中で中止せざるを得なかった事業等を見つめ直し、継続して取り組むもの、内容や方法を少し修正するもの、すべてを変更するもの等を洗い出してみる良い機会ではないかと思う。その結果すべての事業を継続することになっても良い。目標達成のために見直し、検討することが有意義なことだと思う。学びとともにある家庭及び地域になるよう引き続き指導をお願いする。

④文化芸術の振興と歴史の継承

すべての年齢層において文化芸術の素晴らしさを味わわせ、歴史を学び継承させていくことは人づくりという面からも重要なことである。担当課においては、文化連盟の育成と指導を継続し、町文化協会とそれに属する各文化団体への支援を続けていることは大いに評価できる。また、コロナ禍においても「子どもを対象とした文化芸術体験事業」や「市美術展覧会」、「自主文化事業」、「地域子ども教室」等を開催したことはたいへん有意義なことである。

文化財及び埋蔵文化財の保存や発掘、まちなみ景観・環境維持にも尽力していることも特筆すべき事業である。

このように地道に着実に取組を続けることで市民から信頼を得ていることを高く評価する。

⑤スポーツの振興について

健康寿命とともに生涯スポーツの意義が見直され、自主的にウォーキングをしたりジムに通ったりする人たちが増加してきた。今やスポーツは生活の一部となっており担当課に寄せる期待も年々高まってきている。それに呼応するように厳しい予算の中から様々な軽スポーツ大会やスポーツ教室を開催している。一方、中学校の部活動や小学生クラブ活動振興会を通して、勝利至上主義に流れがちな小・中学生の諸大会への健全な在り方とともにスポーツ障害への配慮についての指導も続けている。このように市民のニーズに応える取組を続けてきたことは評価に値するものである。

担当課の25の主要施策の自己評価の内訳は「A」が1、「B」が12、「C」が11、「E」が1であった。そのすべてについて課題が整理され対策がまとめられており、「第2期 雲仙市教育振興基本計画」へとつなげられていることに職務への真摯な姿勢と熱意を感じる。

雲仙市教育委員会のすべての取組に敬意を表するとともに、なお一層の発展を祈念し、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」に対する所見の報告とします。

令和3年7月19日

吉田 功 造

